

# 南三陸×SDGs ～2030年の南三陸を描こう～

学校  
×  
docomo



## ICTが未来につながる情報活用能力を育む

— 宮城県南三陸町

### 目的

- 教室に限らずICT活用の場を広げたい
- 導入した端末を学習に活用できるよう教員のスキルを高めたい
- ICTの活用の幅を授業以外の学びにも広げたい

### アプローチ

- どこでも使えるLTE端末を導入
- 自治体主導で学校にノウハウを水平展開できるリーダーを育成
- 生徒のアイデアを積極的に採用し生徒から自発的に意見を引き出す

## どこでも使えるLTEで活用の場を広げる

南三陸町では、GIGAスクール構想にもとづく一人1台の端末整備にあたり、特定の教室に限らずどこでも使える環境を整えることを重視。LTEのタブレットを導入しました。学校内のさまざまな場所で活用するのはもちろん、校外での活動に持参して写真や資料を集めるなどLTEならではの通信環境を活かした活用が行われています。

### 情報活用能力を身に付けた子どもたちが未来を担う



GIGAスクール構想の発表を受けて間もなく、同町では各学校の担当者が集まる情報教育担当者会を立ち上げ準備を進めてきました。2020年8月に先行して中学3年生、9月には小学3年生以上全小中学生へのタブレット整備が完了。活用フェーズに入った現在では、町独自でICT活用の核となる先生を育てることをめざし、南三陸町ICT教育推進リーダー研修を行っています。外部の人材に頼るのではなく学校のなかで先生同士が教え合い持続可能

なICT活用体制を作るねらいです。南三陸町教育委員会の教育総務課副参事 西條和也氏は「まずはやってみようという前向きな気持ちを持つ先生方が南三陸町には本当にたくさんいます」と話します。

導入から数ヶ月の間に中学校では、校外学習の際にタブレット持参で取材した情報をもとにグループで新聞を作成したり、社会科の町づくりの学習で役場の人に遠隔でインタビューを行ったりという活用が行われています。「子どもたちは驚くほどすぐにタブレットを使いこなしています。にこにこ笑顔で楽しみながら学ぶ姿が印象的です」と西條氏。東日本大震災から10年を迎えようとするなか、未来の町づくりの中心となる子どもたちがのびのびと情報活用能力を育む様子に期待を寄せます。



西條和也氏



### 南三陸町教育委員会

〒986-0725 宮城県本吉郡南三陸町  
志津川字沼田101番地

URL : <https://www.town.minamisanriku.miyagi.jp/index.cfm/1.html/>

宮城県南三陸町には小学校5校、中学校2校があり、GIGAスクール構想にもとづく環境整備で全小中学校にLTEのタブレットを導入しました。2020年9月までには小学3年生以上に一人1台の端末整備が完了し、早速活用が進んでいます。東日本大震災の復興に取組み続ける町で、子どもたちが生き生きとICTを活用して未来につながる力を育てています。



[取材協力] 南三陸町教育委員会

# ICTが生徒たちのかくれた力を引き出す

## プレゼンテーションをゲストに中継し遠隔で交流

南三陸町立志津川中学校の3年生は、社会科の授業の一環として「南三陸×SDGs～2030年の南三陸を描こう～」をテーマに、町の課題を見つめ、未来に向けて有効な方策をSDGsの視点で考えてきました。この日は6回にわたる授業のまとめとしてグループごとにプレゼンテーションを行います。ゲストに株式会社博報堂DYホールディングスでSDGs推進を担う川廷昌弘氏を迎えて発表の様子を中継。生徒は作成したスライドを投影し各自のタブレットを手にさまざまな提案を行いました。

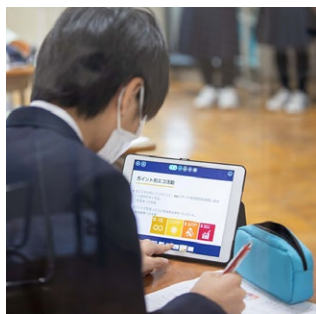
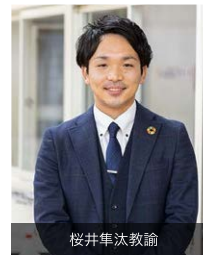
たとえば、国際的な認証を受けた森林管理と牡蠣の養殖に注目し、「南三陸杉」や「戸倉っこかき」のブランド知名度アップを図る広報や新商品作りなどの提案、現行のバイオマス事業推進のためにゴミ分別を促進するアイデアの提案など、町の現状をふまえた具体的な提案が続きます。



## 離れていても身近に感じられるICTの力

発表を終えた生徒たちは、かつて南三陸の町づくりにもかかわったことのある川廷氏に次々に質問。自ら真剣に考えたからこそ熱心に意見を求める姿が印象的です。授業を終えた生徒からは「遠くにいるのに直接話を聞けてリアルに感じられました」「ほかの地域の人に南三陸町についての意見を聞いてみたいです」という感想がありました。コロナ禍でもICTで人とつながれば学びが深まります。

授業を行った社会科の桜井隼汰教諭は、これまで文章で発表することが苦手だった生徒も、タブレットを使ったスライド作成では等しく力を発揮できるようになったと感じています。また、タブレットを使うと共同作業がしやすくなり、生徒たちの関係性に変化が生まれました。「グループのリーダーを決めなくても自然と役割を分担して、みんなで考えてみんなで仕上げていますね」と桜井教諭。



## 生徒たちが自らICT活用の幅を広げる

### 「やっていいですか？」が「これをやりたいです！」に変化

今の生徒たちはタブレットの操作や写真や映像を使った表現方法には日常的になじみがあり、模造紙などアナログな手段よりも短い時間で資料を仕上げられます。その分、グループで内容を検討し深める時間が増えたと桜井教諭は感じています。

「紙に表現するよりも明らかに生徒たちの意欲は高まっていますね」と話すのは情報教育担当の後藤祥教諭。授業内の表現にとどまらず、校内のさまざまな活動でタブレットが活用されはじめています。

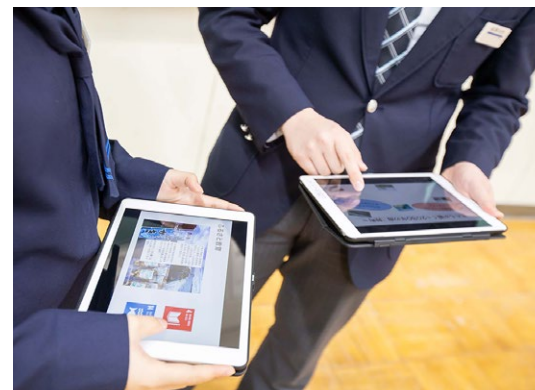
たとえば、生徒会集会で各委員会が活動報告する際、これまではマイクで喋るだけだったのが、いつの間にかプロジェクターでスライドや動画を見せながら発表するようになりました。「『やっていいですか？』と許可を求めるのではなく『これをやりたいです！』と提案する自主性が高まっています」と後藤教諭は話します。



## 合唱の代わりにクラス紹介ムービー制作に取り組む

ICTの活用は学校行事にも広がります。コロナ禍で恒例の合唱ができなくなった2020年度、クラス全体で取り組む表現活動としてクラス紹介ムービー作ることになりました。タブレットがあるので、撮影も編集も特別な機材なしでかんたんに行えます。各クラスが工夫をこらして5分程度のムービーを作成し、文化祭では大画面で保護者に披露。想像を越える仕上がりで保護者から大好評でした。

ムービー作成の際には、どのアプリなら何ができるかを生徒が自ら調べて工夫して編集する姿も。また、普段もの静かな生徒が率先して進めるなど、これまでの活動では気づかなかった一面が見られたそうです。ICTを使うことで、生徒たちが輝くチャンスがさまざまに広がっていきます。



お問い合わせ

株式会社NTTドコモ

ドコモ・コーポレートインフォメーションセンター(☎0120-808-539)  
受付時間 平日午前9時～午後6時(土・日・祝日・年末年始を除く)

ドコモのホームページ 法人のお客さま  
教育の場にICTを!

[https://www.nttdocomo.co.jp/biz/special/education\\_ict/](https://www.nttdocomo.co.jp/biz/special/education_ict/)



※本チラシの内容は2021年2月取材時点のものです。